

3 - 2 関東・東海地域における歪観測結果

Observations of Crustal Strains by Borehole Strainmeters in the Kanto and Tokai District

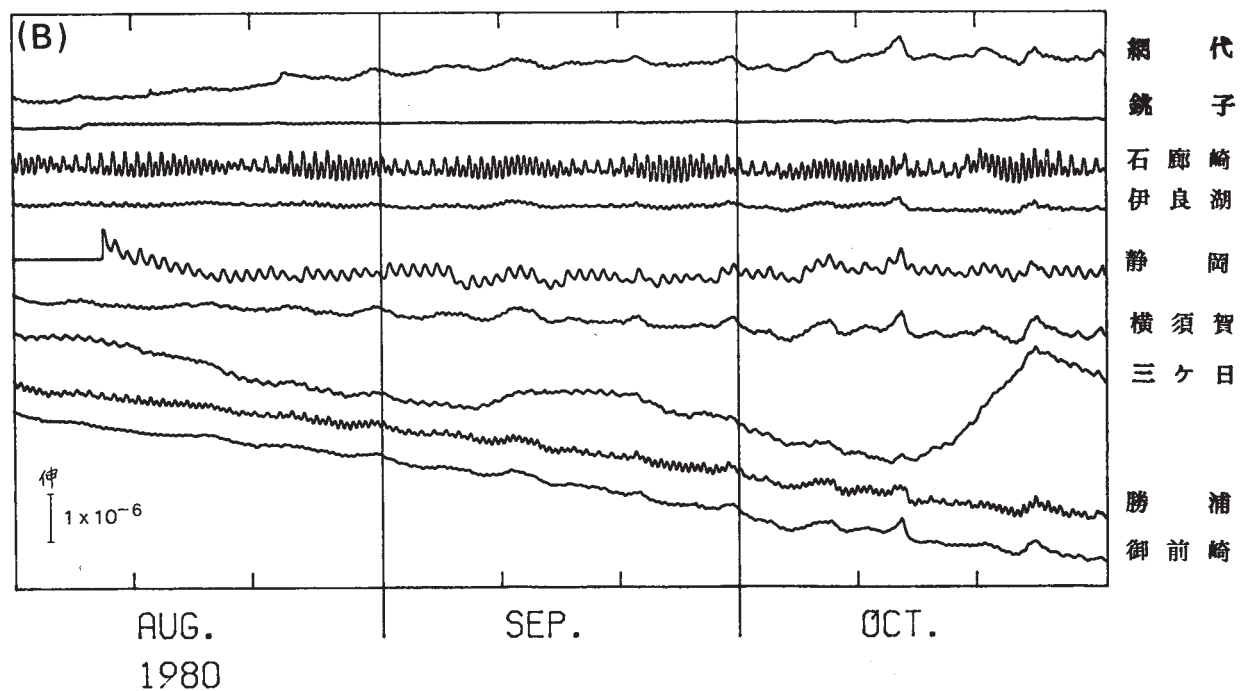
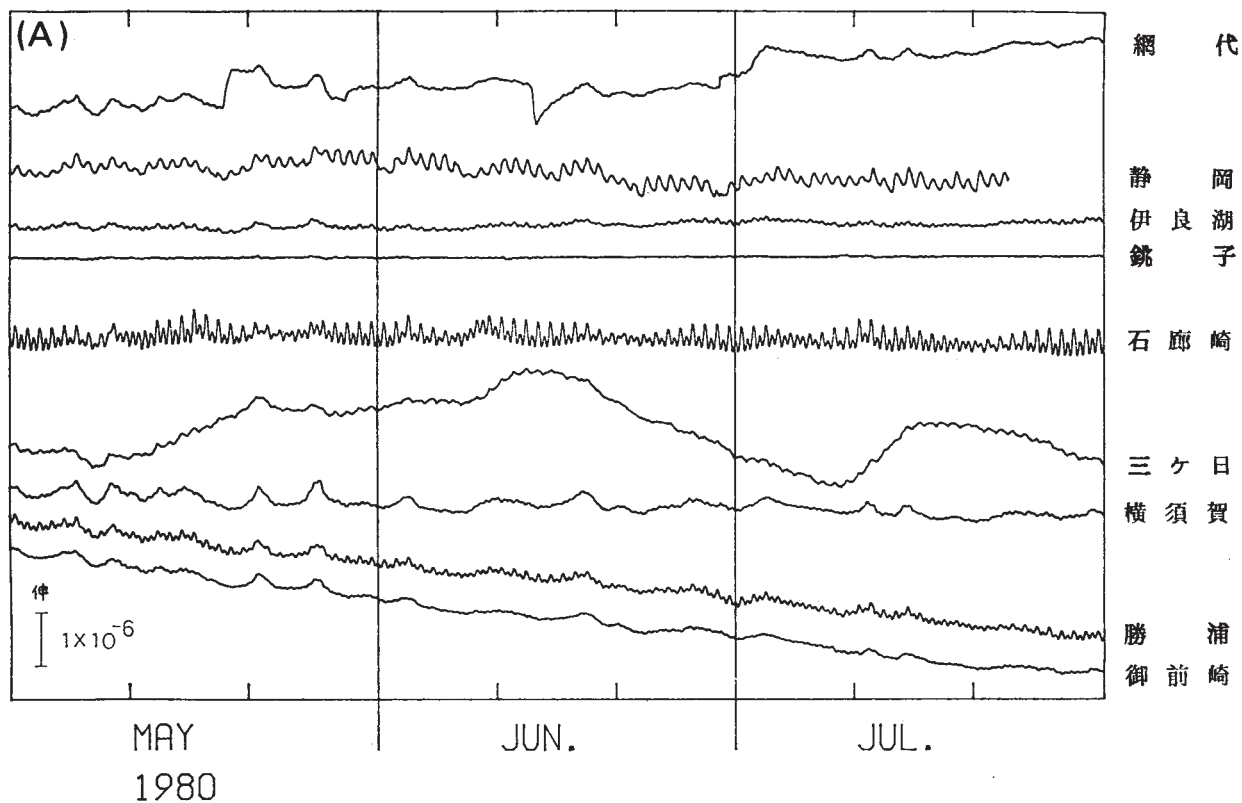
気象庁地震課 地震予知情報室
OIEP, Seismological Division, Japan Meteorological Agency

第1図(A)および(B)は、最近6か月間における南関東および東海地域の体積歪計による歪変化である。第2図および第3図は、観測開始以来1980年10月中旬までの変化図である。

第1図(A)によると、網代では5月中旬に 0.7×10^{-6} 程度の伸び、また、6月中旬には 0.8×10^{-6} 程度の縮みとやや顕著な変化があった。しかし、1980年3月まで、時々かなり大きな変化が続いていた(第2図)ので、このことを考慮すれば、特に異常な変化とは言えない。なお、6月29日の伊豆半島東方沖地震後は非常に安定した状態となっている。

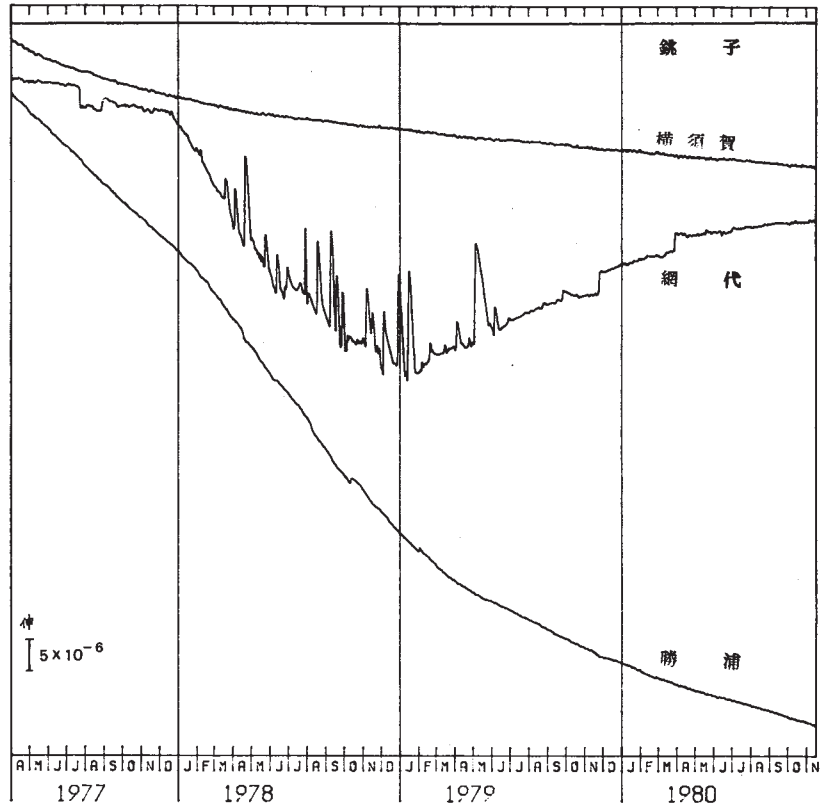
第1図(A)および(B)で三ヶ日の記録は、やや変化が大きいですが、これは第3図からもわかるように、毎年春～秋季に時々伸びになる傾向があり、恐らく降水量に関係した変化と思われる。

その他は、特に注目すべき変化はない。



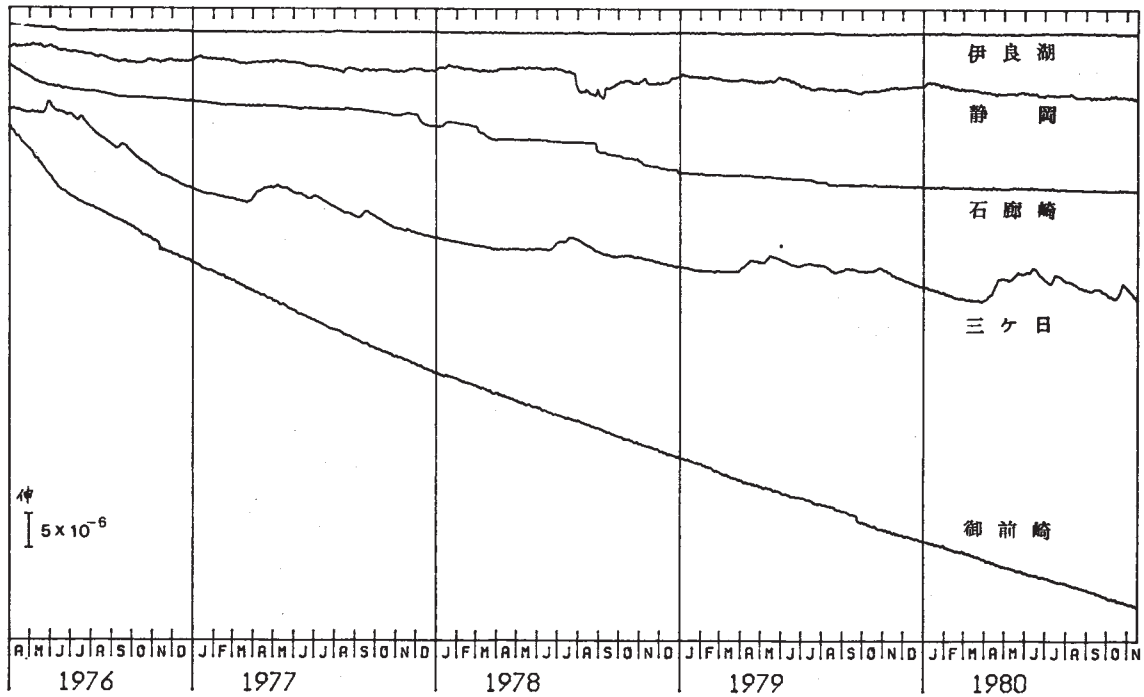
第1図 埋込式歪計による歪変化（毎時の値）

Fig. 1 (A) and (B). Variations of ground-strains by borehole strainmeters (hourly values).



第2図 関東地方における埋込式歪計による歪変化（毎日の平均値）

Fig. 2 Secular variations of ground-strains by borehole strainmeters in the Kanto District (daily mean values).



第3図 東海地方における埋込式歪計による歪変化（毎日の平均値）

Fig. 3 Secular variations of ground-strains by borehole strainmeters in the Tokai District (daily mean values).